

平成 30 年 8 月吉日

担当者

一般社団法人 播磨自然高原クラブ
運営審議会 委員長 森本裕政

皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。いつも高原の為に協力いただきましてありがとうございます。

この度もっと快適な高原とするべくアンケートをお願いすることになりました。誠に勝手なお願いで恐れ入りますが返信は 9 月 9 日までをお願いいたします。

アンケート山の家レストランについて

- ① レストランは会員の利便性、高原の付加価値にとって有効だと思っておりますが皆さまはどうお考えですか。
 - ・ 必要
 - ・ 不要
- ② レストランを利用したことがありますか。
 - ・ ある
 - ・ ない（理由）
- ③ 利用してみて
 - ・ また利用したい
 - ・ 利用したくない（具体的に）
- ④ ある方にお聞きます。どのくらい利用しましたか。
 - ・ 年 1 回程度
 - ・ 年 2～3 回程度
 - ・ 年 5 回程度
 - ・ 年 10 回以上
- ⑤ 食事について
 - ・ おいしい
 - ・ 普通
 - ・ おいしくない
- ⑥ メニューについて
 - ・ 今のままでよい
 - ・ もっと増やしてほしい（具体的に）
- ⑦ 料理の提供時間について
 - ・ 早い
 - ・ 普通
 - ・ 遅い
- ⑧ 値段について
 - ・ 高い
 - ・ 納得できる
 - ・ 安い
- ⑨ 最後にレストランのあり方について意見があればぜひお聞かせください。

アンケートについては事務所並びにゲートにて回収いたします。

郵送の場合は同封の返信用封筒でご送付願います。

FAXの場合は0791-56-0272へお願いいたします。

地区

氏名

平成30年9月9日

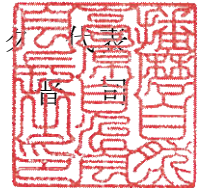
一般社団法人播磨自然高原クラブ
運営審議会 委員長 森本 裕政 様

播磨自然高原クラブ社員 兼

播磨自然高原自治会 会長

播磨自然高原情報ネットワーク

岡 庭



公開質問状への回答について（依頼）

このことについて、「播磨自然高原クラブ会員の皆様へ」として「アンケート山の家レストランについて」と標題する書面が貴殿名にて配布されました。

このアンケートにおける内容については播磨自然高原クラブ会員（以下、「高原クラブ会員」）はもとより自治会会員からも意見や疑問が多数寄せられていることから、高原クラブ会員を含む住民を代表して、別紙、公開質問状の設問について平成30年9月18日までの回答を願います。

本件は「公開質問状」としてありますので、事前に関係する団体等のホームページその他の媒体・報道関係へ予め公開を行ったうえで、回答について開示しますので、予めご承知おきください。

記

（別紙） 公開質問状（アンケート山の家レストランについて）

設問：【Q1】～【Q5】の5項目

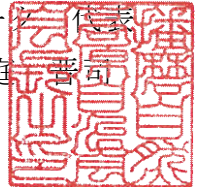
以上

(別紙)

一般社団法人播磨自然高原クラブ
運営審議会 委員長 森本 裕政 様

播磨自然高原クラブ 社員 兼
播磨自然高原自治会 会長
播磨自然高原情報ネットワーク 代表

岡庭 善司



公開質問状

(アンケート山の家のレストランについて)

【Q1】

山の家の運営は理事会執行部が現在行っているが、運営審議会の名前で今回アンケートを実施したのは何故か？

運営の主体であり責任を負う一般社団法人播磨自然高原クラブ名でアンケートを実施すべきではないか？

【Q2】

運営審議会のメンバーである五十嵐氏はこのアンケートの実施について何も知らされておらず、事前に審議会の招集の連絡もなかった証言している。審議会のメンバー構成およびアンケート策定に関わった人員について回答されたい。

【Q3】

山の家のレストランの年間の所要経費を明らかにされたい。

水道光熱費・広告宣伝費その他パン食べ放題などのイベント費用について情報を開示した後にレストランが必要であるか否かを会員にアンケートすべきものである。会員の管理費から支出する以上、広告宣伝費をかけて何軒の別荘購入に寄与したのか併せて説明すべきである。

さらに、広告宣伝費やパン食べ放題などのイベント費用について会員が負担を行う必然性があるのか？またその経費負担の有効性について資料を添えて説明されたい。

【Q4】

アンケート質問内容の①番では「レストランは会員の利便性、高原の付加価値にとって有効だと思っております」となっているが、結論を先に明示した中立性を欠いたこのような設問は極めて恣意的で問題がある。

アンケート内容は、誰が立案したのか経緯を含めて前掲【Q1】の質問と併せて、運営審議会の委員長である森本氏自らが高原クラブ会員および住民に説明されたい。

【Q5】

高原クラブ第14期社員総会において平成29年度事業としてレストランへの経営支援が必要と判断し、様々な経済支援を行っている旨を柳川副代表理事が答弁しているが、レストラン経営者個人に対する貸金行為や閑散期の休業補償に加え、外部への広告を頻繁に行っており、高原クラブが一体となってレストランを共同経営しているかの如くで、この行為は会員の福利厚生施設の管理・運営であるという基本理念を大きく踏み外している。

さらに、黒兼代表理事が「プチフレーズ（レストラン名称）のため」と称して必死でパンを焼き続けている等の目撃や証言が数多くあり、このような逸脱した支援は極めて不可解であると言わざるを得ない。

これらの支援に加え、既に多額の経費を浪費し続けていることについて合理的かつ整合性のある回答を求める。

以上